JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【報告書タイトル】ザンビアでの教師海外研修を経て

【実践者】

氏名	髙橋 謙介	学校名	山形 ~~都・道・府~~・県 立 小国高等 学校
担当教科等	地理探究	対象学年（人数）	3年 1組（13名）
実践年月日もしくは期間（時数）		R6年9月 ～ 11月（ 8時間）	

【実践概要】

1．単元(活動)名

現代世界の系統地理的考察 発展途上国の都市・居住問題

2．単元目標

（1）人口、都市・村落などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。

（知識・技能）

（2）人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。（思考・判断・表現）

（3）人口・村落・都市などに関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる（学びに向かう力、人間性等）

関連する学習指導要領上の目標：

単元目標と同上

3．単元の評価規準	①知識及び技能	人工、都市・村落などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。
	②思考力、判断力、表現力等	人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	人口・村落・都市などに関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる。

４．単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】 生徒が遠く離れた途上国の問題を自分事として捉えるためには、この都市問題を扱うことが有効的であると感じた。教科書には言葉と数枚の写真しか載っていないが、実際には様々な問題が複雑に絡み合っている。そうした問題を多面的・多角的な視点から考察することができる単元である。また、都市問題には必ず「人」の存在が絡んでくる。そうした現地で生活している人のことを考えることにより、様々な問題を身近に感じることができる。 【単元の意義】 発展途上国の都市問題について考えることにより、現地の状況を踏まえたうえでの国際協力を考えるきっかけにしてほしい。また、日本の都市問題も興味・関心を持ち、自分の行動を振り返るきっかけになる。 【児童／生徒観】 3年１組の地理探究選択者は、地理に対して意欲的に学ぶ姿勢が見られる。これまでは知識の習得だけではなく、問題演習にも取り組んできた。演習を通して、物事を多面的・多角的にとらえる力や、持っている知識を組み合わせて一つの解答を導き出す力を養ってきた。１ 人で考える力の他にも、仲間と協働して演習をする場面も設定しており、違う考えを受け入れる力、自分の考えを伝える力も養ってきた。全体的に、地理的事象に対する興味関心が高く、主体的に学習に取り組むことができている。中には海外留学を経験している生徒もおり、今後グローバルに活躍してもらいたいとも思っている。 【教材観】 今回は開発途上国の一つであるザンビアの首都ルサカのコンパウンドを教材として扱う。ザンビアのコンパウンドの大きな課題として HIV やコレラなどの感染症の流行が挙げられる。実際に 2023 年から 2024 年にかけてルサカのコンパウンドでコレラが蔓延し、大きな問題となった。このように開発途上国の実例を学ぶことは、生徒の開発教育に関する興味関心や国際理解を深めていくには必要であると思う。単元の中にはインフラ設備に関することや、インフォーマルセクターなどに関する内容もあるが、これらは今後のアフリカの地誌の場面で扱いたいと考えているため、今回は衛生面に注目した授業内容となっている。また、本授業は、養護教諭との教科横断的な授業も兼ねており、多面的・多角的に考察することができる教材である。 【指導観】 遠く離れた土地に住む人々が抱える問題を自分事として捉え、持続可能な開発について理解を深めることができるように授業を展開する。ザンビアの事だけではなく、日本との違いや共通点を考えさせることによって、アフリカの国を、開発途上国のことをより身近に感じてもらえるような時間にしてもらいたい。また、教員の実体験をもとにした授業を受けることにより、生徒自身も実際に現地に行き、学びたいと思ってもらいたい。そのための第一歩として、生徒自身が新たな気づきを得られるための時間にしたいと考える。そのうえで、今後生徒が少しでも開発教育に携わって欲しいという願いがある。

5．単元計画（全8時間）			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はこちらに記載
1	○発展途上国の居住・都市問題 ・ルサカのコンパウンドの現状について理解を深める	・コンパウンドとはどのような場所か、今のイメージを確認する。 ・コンパウンドの現状を、写真を見ながら意見を出し合い、整理する。	自作資料
2	○世界で流行する感染症、（養護教諭より） ・コレラなど発展途上国で蔓延する感染症について理解を深める	・世界の感染症について理解を深める。 ・コレラの特徴について理解を深める。	自作資料
3 本時	○ルサカのコンパウンドではなぜ感染症がまん延するのか ・ルサカのコンパウンドにおいて感染症がまん延してしまう理由を考える。	・1 時間目と 2 時間目で学習した知識を用いて、コレラが蔓延する原因を考える。 ・コレラのまん延を防ぐためにはどうすればよいか、考える。	自作資料
4	○感染症のまん延を防ぐために ・感染症のまん延を防ぐためにはどんなことができるのか、どんな方法があるのか、について考える。	・どのような解決方法が望ましいかを考える。（ダイヤモンドランキング） ・WASH プロジェクトを紹介する。	自作資料
5	○ルサカのゴミ山について考える ・ゴミ山の現状を知る。	・ゴミ山現状について考える。（フォトランゲージ） ・実際の写真や動画をみてゴミ山の現状について理解を深める。	自作資料
6	○ルサカのゴミ山について考える2 ・ゴミ山に関わる問題について考える。	・ゴミ山に関わる様々な人との関係性を理解する。（ロールプレイ） ・ゴミ山問題を解決するためにはどのような方法が望ましいか、考える。（ダイヤモンドランキング）	自作資料
7	○ザンビア内の格差について考える ・ザンビアの都市部と農村部の違いを知る。	・現地で購入したチテンゲに触れる。 ・ザンビア内での格差について理解する。（ちがいのちがい）	自作資料
8	○貧困について考える ・貧困の原因は何か、貧困はどのような影響を及ぼしているのか考える。	・今まで学習してきたことを踏まえて、貧困の現状と原因についてまとめる。（ウェビング） ・まとめを行う。	自作資料

6. 本時の展開（ 8時間目）

本時のねらい：スラム街でコレラがまん延する原因を考え、説明することができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 （支援） ●指導上の留意点 ◇支援	資料（教材）
導入 （5分）	○前回と前々回のプリントを見て復習をする		
展開 （40分）	○乾季のコンパウンドの写真を見てコレラがまん延する原因を考える。 ・グループで話し合いながら探す	●今時点では乾季の写真しか見せない	
	○コンパウンドのトイレについて知る ・どんなトイレを使っているかを想像する ・実際にトイレの様子を見せる ・プリントに気づきを記入し、共有	◇トイレの現状を簡単に説明する	 ↑乾季のコンパウンドの様子
	○雨季のコンパウンドの様子を知る ・最初にルサカの雨温図を見せる ・次に雨季のコンパウンドの写真をグループに配布し見る ・プリントに気づきを記入し、共有する	●乾季なのに水たまりがあることに気づかせたい	 ↑コンパウンドのトイレの様子
	○コンパウンドでコレラが蔓延する理由を考える ・付箋を用いておこなう ・コンパウンドの写真から考えられる原因を付箋に書く （～感染症について～のプリントより、コレラの特徴に基づいて付箋を書いていく）	◇机間巡視しながら必要なアドバイスを適宜行う ◇コレラの特徴を確認する	 ↑雨季のコンパウンドの様子
まとめ （ 5分）	○グループごとに発表をおこなう		

7. 本時の振り

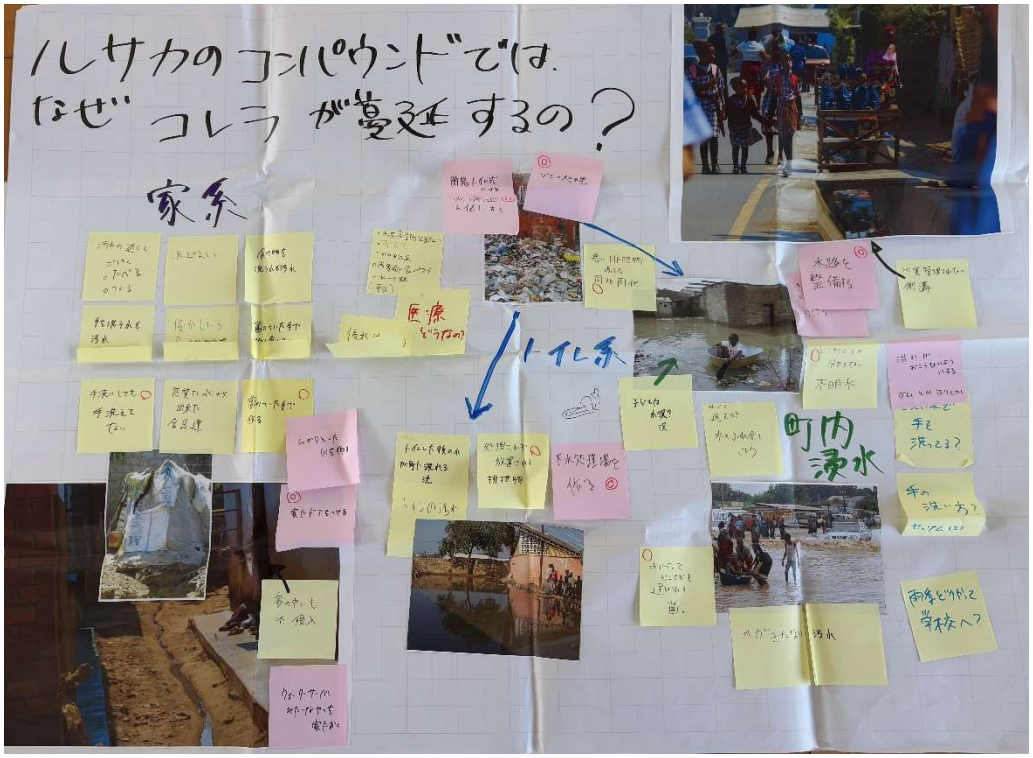
1 時間目で理解を深めたコンパウンドの様子は乾季であり、これが雨季になったらどうなるのかについてグループで考えることができた。それを踏まえてコンパウンドでコレラがまん延してしまう原因を考えることができた。大判用紙や写真に直接書き込みながらまとめたことで、生徒も状況を整理できていた。教科書の文字だけでは想像できないことを知り、考えることができ、生徒の深い理解につながった。

8．学習方法及び外部との連携 学習方法 ・写真を多く用い、様々なことに気付くことができるような授業展開にした。 ・付箋や大判用紙を用いてまとめることにより、状況を整理しやすくなるように工夫をした。 ・生徒が自分自身の力で気付きを得られるように声掛けを行った。
9．学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 ・校内の職員研修にて、教師海外研修で得た学びを共有した。 ・校内研究授業で同僚の先生方に授業を見ていただき、事後研修にてご意見をいただいた。 ・宮城県高等学校地理部会にて、教師海外研修で得た学びを共有した。 ・他県の教員に今回作成したワーク（ザンビアのゴミ山について考える）を共有し、実践していただいた。 ・総合的な探究の時間内において事前研修で講話いただいた IVY の方からワークショップをしていただいた。

【自己評価】

10．苦労した点	生徒がいかに自分事として考えられるか。そのためのワーク選定、写真の選定、言葉選びなど、慎重に行った。教員の意見や考えの押し付けにならないように、生徒の意見や考えを尊重するように努めた。 教師海外研修で得た学びはあまりにも膨大すぎるため、情報の絞り込みをするのに苦労した。本当であれば見てきたものを全て紹介したいところであるが、時間も限られているため伝えるものを絞り込むのが大変であった。
11．改善点	選定したワークショップの手法を生徒が理解する必要がある。今回はフォトランゲージ、KJ 法、ダイヤモンドランキング、ウェビングなどの手法を使用したが、本校生徒にとって馴染みのある KJ 法については、問題なくワークに取り組めたが、あまり馴染みのないウェビングに戸惑っている姿も見られた。次回以降は手法のやり方、意図なども理解したうえでワークに取り組ませたい。 ワークを行う時数や時期についても改善の余地がある。今回は全8時間という日程で行ったが、4 時間連続で実施した時期もあり、生徒に飽きが来ないかという点が不安であった。週 1 コマずつにして 8 週間かけて実施するなど工夫が必要である
12．成果が出た点	今回の授業を経て、生徒がアフリカや発展途上国について考えるきっかけになった。今までは発展途上国というと、「貧困」などというイメージはあったと思うが、なぜ貧困なのか、貧困だとどんなことが問題なのか、などといったより深く考えることができた。また、諸問題について多面的・多角的な視点を持てるようになった。ゴミ山の問題では、ゴミ山を無くすのではなく、アグリゲッターの就労支援の方が先では?といった、一見直接関係ないような事も、問題の解決に向けては必要であることを理解できた。また、持続可能な開発について理解を深めることができ、我々先進国はなにができるのか、現地の人の目線に立って考えることができた。 生徒の中には、自分もアフリカに行ってみたい、と言い出す生徒もいて、私が目指す生徒の姿が見られたのではないかと感じた。

13. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど）	○本時で生徒が作成したもの



上に添付した画像の通り、生徒が付箋や写真を自由に貼り、コンパウンドの現状について理解を深めた。黄色い付箋は気づきを書いたもので、赤い付箋は解決するための方法について考えたものである。実際に教員が撮った写真は生徒にとって生きた教材となった。

○8 時間目のまとめの時に生徒が作成したもの。

○授業実施後の振り返りフォームより

質問：授業を受ける前と受けた後で、自分の考えに変化はあったか？

生徒 A

雨季、換気での環境の変化があれほどあるとは初めて知り、驚いた。 乾燥している印象があり、雨が降ったときの変化がとても激しい。そのため衛生環境や処理がきちんと行われていない状態をより悪化させてしまうことにつながると考えることが出来た

生徒 B

受ける前はスラム街なので、汚くて何もない場所だと思っていました。でも、受けた後の印象は意外と外観はきれいだなと思ったけど、環境問題や設備など課題があって、スラム街という場所の知識が「汚い」以外の情報も学べた。

生徒 C

授業を受ける前まではザンビアは貧困でスラムがあるという簡単な考えだったけど、今回の授業を受けてザンビアで蔓延しているこれらやコンパウンド問題などザンビアを深く様々な面から考えることが出来るようになった

生徒 D

トイレが汚かったり、イメージ通りの部分もあったけど、コンパウンドに住む子どもたちの表情から、そこまできついところじゃないんだなと感じた。自分が思っている以上に昼間は賑やかなところでびっくりした。

	上記の 4 人の感想より、より詳しくコンパウンドの現状について理解を深めることができているのがわかる。しかし、我々が行けたコンパウンドは治安的にも問題ない場所だったこともあり、そこの写真を見た生徒は、問題もあるが思ったよりも良い所という印象を持った生徒もいた。その際には、教員が現地の協力隊やファシリテーターの先生からいただいた写真を見せたりもした。 質問：授業を通しての感想 生徒 E ルサカのコンパウンドで暮らしている人たちが、これらを通常のことと受け止め日々生活していることを考えると、より衛生環境改善に努め、菌などの繁殖を抑止することは少し時間がかかるとも感じた。水が豊富なわけでもなく、お金がないなどマイナス面が多いところを周辺国や先進国などの開発が可能な地域が関与する必要があると改めて強く実感した。 大規模な浄水場を建設するなどは難しく長期の建設期間がかかるため、各家庭、各集落において小型の浄水器の設置などを行うほうが適正であると考えられる。 また衛生環境という面において、清潔という概念がないように感じた。より多くのひとに環境を整えることについて意識を向けることがたいせつだと感じた。 生徒 F コンパウンドの雰囲気だけを見ると良いところだなと思うけれど、衛生面とかインフラとか治安のという現実的な面を見ると住みやすいところではないなと感じた。今回の授業を通して世界、特に発展途上国での現状を教科書よりも知ることができてとても楽しかった。教科書からは知り得ない情報をたくさん仕入れることができた。 生徒 G 今回の授業を受けて、発展途上地域について知った気になっていてまだ知らない部分が多くあることを感じた。今後気になったことを調べるなどして、自分でも知識を深めていきたい。 生徒 H 授業を通してザンビアの抱える問題などを考えることができ、今日本にいる僕たちが出来ることを少しでも実践して、ザンビアのためになるようなことをしていきたいと思った 上記の感想より、授業を通して発展途上国の諸問題について考えていると同時に、多くの生徒が今後の関わり方や自分の気持ちの持ち方について書いていた。

14．授業者による自由記述	今回の教師海外研修では本物に触れたいという強い気持ちがあった。私が日頃の授業から心がけていることは、授業を受けた生徒が自分も行ってみたい！と思ってもらえるような授業にすることだ。そのためには教員自身が実際に経験をして、そこで得たものを生徒たちに還元することが必要であると感じる。そして何より大事であると感じたのが教員自身も楽しむことである。先生が楽しそうに授業をしていたら生徒も自然と引き込まれていく。そんな授業をしたいと思い、今回の授業を作成した。 生徒にとってこの授業があと一歩を踏み出す手助けになることや、新しい世界への扉を開くきっかけになって欲しいとも思っている。今後もこのような授業を続けていくとともに、自分自身も挑戦し続けて行きたいと強く思う。

参考資料：

新詳地理探究（帝国書院）
新詳地理資料 COMPLETE2023（帝国書院）
新詳高等地図（帝国書院）
ザンビアを知るための 55 章（明石書店）
DZIKO LANGA MYSELF MY COMMUNITY PICUTURE BOOK（Dziko Langa）

１３　発展途上国の都市問題　～ルサカのコンパウンド～

スラム、コンパウンドってどんな場所？
～今のイメージを書いてみよう～

スラム、コンパウンドに住んでいる人たちはどんな様子だろうか
～今のイメージを書いてみよう～

スラム、コンパウンドのなにが問題なのだろうか

〇コンパウンドの様子
写真から見つけた気づき、問い

〇コンパウンドの様子２
写真では見えないところ